

平成 26 年度

事業所名 : グループホーム ゆいっこ

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372200501		
法人名	社会福祉法人 志和大樹会		
事業所名	グループホーム ゆいっこ		
所在地	紫波郡紫波町土館字関沢24-1		
自己評価作成日	平成26年10月1日	評価結果市町村受理日	平成27年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0372200501-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02">http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0372200501-00&amp;PrefCd=03&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成 26 年 10 月 10 日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念目標として利用者の介護の総合的介護は、「自立支援(身体的・精神的)」「役割」「笑顔」を今年度の大前提として取り組んでいます。特に、利用者に関しては、個々人の人権を尊重しながらも、普段の暮らしを確立しながら社会生活に溶け込めるよう暮らしと活動を支援することに努めています。また、地域に溶け込めるよう地元の保育園・小学生そして高校生の活動にも協力し、または、地域に出かける機会を多く持ち、開かれはグループホームに努力をしています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が自立した生活を行うには、単に寄り添うだけでなく、活動的な支援も欠かせないという考えのもと、利用者の体力づくりに積極的に取り組んでいます。その結果、寝たきりに近い状態の利用者がトイレまで一人で歩くようになったほか、表情や発語にも変化も見られるようになってい。また車だけの移動に疑問を持ち、家族の協力を得て電車を利用し、盛岡の歌謡ショーに出かけている。利用者が社会や地域に溶け込んだ生活をするために、自由な外出の機会を多く設定し、月に10日以上買い物や花見、祭りなど積極的な外出支援をしており、「やればできるんだ」と利用者や職員の自信につなげている。まず「食べ」て体力をつけ、体力をつけて「歩く」ことを意識的に取り入れ活動的となり、次に「話す」こと、「会話」や「訴え」が出来るようになり、生活場面で「役割」が生じ、生きる喜びとしての「笑顔」が戻ってきている。今後も利用者のできることを増やし、ホームでの楽しい日常生活と地域との交流を深める支援をしたいとしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

事業所名 : グループホーム ゆいっこ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自立支援を念頭に置きながら本人ができることの中でやりがいや生きがいを持って生活できるように職員としてサポートできるような支援している	法人の介護三訓の視点を活かした介護を全職員が共有し、共に生活しているという姿勢で取り組んでいる。地域で生きがいを持って生活するには、自立支援が大切と考え、体力づくりに取り組み、その結果、排せつや動き、表情、発語等の改善となり、また遠方の外出も可能となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の理容室の利用や地域のスーパーでの買い物、地域の学校行事への参加、保育園児との交流、お祭りへの参加等で地域の方と挨拶をしたり交流を図れる様支援している。また、3月毎に広報を発行し、地域の方にも配布している	近所から野菜等を頂いたり、知人や傾聴ボランティアの訪問などがある。また高校生の介護実習の受け入れや保育園児、11月には小学生との交流も予定されているほか、祭りや運動会へも参加している。公民館や小学校、警察署、診療所、薬局などへ160部の広報誌を発行し地域に届けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保育園・生徒の学習や地域の学生の実習を受け入れを通し、認知症の人の理解や支援方法を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は3月毎に開催し、ご意見をいただいている。今年度は家族会と合同で他事業所の視察研修も行いケアに生かしている。	委員は家族会代表と利用者、民生委員等で構成され、会議では利用者状況や事業活動の報告し、それに意見を頂いているほか、家族会と合同で他事業所の視察研修を実施し識見を広めるなど特徴的な取り組みを行っている。	他事業所の視察を行い、サービス向上に活かした取り組みをしているが、他事業所の運営推進会議に出席してみることも有意義な方法として提案したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回の介護相談員の訪問や運営推進会議の委員になってもらい理解を深めている	役場主催の会議や研修に参加し情報交換しているほか、訪問や電話等で相談する時もある。役場・社協・社会福祉法人で共催する紫波介護の日には、寸劇を行ったり、介護相談や用品の展示を行うなど協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症重度の方がいるので、玄関は押しボタン式の自動ドアになっているが、日中は玄関・窓等は施錠せず解放としている。また、部署会議内で身体拘束についての研修も行い意識付けに努めている	入居時に「身体拘束廃止に関する指針」を説明するなどしっかりと対応を行っている。一方身体拘束廃止に向けた研修や部署会議を行い正しい理解に努めている。また言葉の使い方の基本を学び、なれ合いやマナーに関しても自戒に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	部署会議内で研修を行い、その理解が図れる様努めている。原因不明の内出血等の発生時には記録に残し、どういった際に発生するか職員間で検討、申し送り再発防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部署会議内で研修を行い、その理解が図れる様努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に疑問や不安な点を伺い、説明をしている。また、家族会開催時や面会時等、問題解決に努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に3回家族会を開催し意見を伺う機会を設けているが、日頃より、利用者様やご家族から意見をお聞きしやすいよう、担当制を取り入れ、関係作りにも努めながら情報交換を行っている。運営推進会議でも随時報告し反映させている	家族とは面会時に日常生活状況を説明や雑談を交え意見等の出やすい雰囲気づくりに努めている。また家族会での話題も大切にしているほか、介護相談員を通じた意見等も大切に運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個別面談の実施や、毎月1回部署会議を開催し、伝達事項の周知や職員の意見を聞き反映させる場としている。また、日常業務にも一緒に入っているため全員で方向性を考える機会が多い	毎月開催する部署会議で事前に出してもらった利用者や業務等に関する事項について意見交換しながら反映に努めており、例えば、日除けのグリーンカーテンの設置や介護記録方法の改善など反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常業務にも入ることにより職員個々の業務状況を把握し、意見が反映できるよう吸い上げを行い整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で開催している各種研修への参加をしている。部署会議で研修の報告をする事により情報の共有を行い質の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他部署職員と交流する機会を設けているほか、事業所間で行き来することにより情報交換を行っている。また、他事業所との交換研修を行い、情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人がどのようなことで困っているか日々のケアの中で話し、ご家族の面会時にはご家族からも伺い、解決するためにどの程度取り組むか会議などで話し合い、密にコミュニケーションを図って関係づくりをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時にご本人の状況説明をした際などご家族から話を伺い関係作りをしながら解決できるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族と話し、「その時」必要としている支援について、まず情報提供をし、選択して頂いた上でサービスの提供ができるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「できる事」「できない事」を見極め、役割、居場所作り、知識や経験を若い職員に教えて貰いながら人生の先輩として敬い、「〇〇さんのおかげ」と頼りにしていることを伝え関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際にはご家族にもお声を掛け、参加して頂き、面会時や毎月のお便りにて利用者様の情報を共有し共に支援していく関係作りに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や、ご本人にとって馴染みのある方が面会に来た際には、一緒に写真を撮って部屋に飾ったり、面会者にまた来ていただけるようお声をかけたり楽しい時間を過ごして頂ける様努めている	「人と会うこと」、「馴染みの場所に行くこと」を大切にしており、理髪店への訪問や元同僚の訪問のほか、スーパーへの買い物やオガールでのコンサートへ出かけている。一人暮らしの方の家に衣類取りに行ったり、家族の協力を得て、花見や外食、墓参りをするなど楽しく過ごせる支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や感情の変化を理解し、利用者同士の関係や、その時のお互いの波長を感じながら、必要に応じて職員が間に入り関わる事で良い雰囲気作りに努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開かれた施設作りに努めており、どなたでも来所できるような体制と来所時には丁寧に対応するよう心掛けている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々ともに暮らしていく中での会話や表情、行動などで希望や要望を汲み取って把握するようにしている	利用者が「やりたいこと」など、思いや意向の把握に関心を持って対応することを基本姿勢としており、散歩時や、普段の会話、家族からの情報など様々の機会を得た情報を記録して情報の共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントやご家族からの情報を得よう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンや心身状態の変化を個々に記録し、申し送りノートなどを活用して現状の把握ができるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人らしく暮らせる為に、部署会議や日々の申し送り等で随時話し合い、決定したケア内容なども開始前に本人、ご家族に意見や要望を伺い、意見を反映させた介護計画作成に努めている	介護計画は各担当者から出された利用者の日頃の様子や身体状況等をもとに話し合っ て生活上の課題や目標を立てているほか、日々の申し送りや本人・家族の意見も反映させたうえで介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状態の変化やケアの実践、結果等を時系列の記録にし、職員間で情報を共有しケアの在り方や実践や計画の見直しの参考に活用している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日頃から利用者様の状況を確認しながら効果的と思われる対応をしたり、法人内の他事業所との交流を行い、画一的な対応にならないよう努めている。また、行事に合わせ職員の配置や日課の変更を行うよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、傾聴ボランティア等を受け入れたり、近所の理髪店となじみの関係が築ける様支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、嘱託医の往診があり、専門医への町内の受診と緊急時の受診は職員が対応、それ以外の受診はご家族に協力をいただき、日頃の様子を伝えたくて、ご家族に通院をお願いしている	利用者希望のかかりつけ医の方もいるが、家族と相談同意の上、法人の嘱託医をかかりつけ医とし、毎週、嘱託医のほか、歯科医による訪問診療をお願いし健康管理に配慮し安心につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調変化の際は随時看護師に報告、相談し指示を受け、適切な対応に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には情報交換ができるよう、常に情報を整理し、まとめている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常日頃から、面会時・お便りや電話連絡等で状態を報告をして、今後の対応を相談している	「医療連携体制に関する指針」を定めているが、看取りは施設の設定環境などから行っておらず、重度化は主治医の判断と指導により対応している。なお、医療が必要になった時は併設の特別養護老人ホームの活用のほか、主治医と家族で相談し対応しており、このことを入居時に説明し理解を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応方法について等部署会議で共有し、すぐに目につくように示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練をマニュアルに基づいて実施。地域の方も協力隊として協力して頂けている	夜間想定を含む避難訓練を年2回実施している。7月には法人と合同で消防署の指導のもとで避難訓練を実施しており、15名の地域防災協力隊の協力を得て、利用者の安全確保のための誘導を依頼している。	防災について、設備等に過信することなく取扱いや、いざという時の行動等についてイメージするなど、日頃からの防災意識の一層の高揚を図ることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の状況に応じた対応をする中で、他者の目も考慮しながら支援するよう努めている	利用者の生活歴に応じた話し方があることから、その人にとって納得した言葉で話しかけ寄り添う姿勢で接している。排泄時も耳元でさりげない声掛けをするなど、誇りやプライバシーを損ねない配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定可能な方には行動を起こす際に意思確認したり、談話の中で聞き取りや自己決定のための後押しとなる支援をするよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとり全ての要望を満たすことは難しいが、何をしたいのか聞きつつ、一人一人のペースで体調や動きに合わせ、生活歴や趣味を生かして過ごして頂ける様努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望者には白髪染めをしたり、行きつけの美容室がある方は家族に連れて行っていただいている。外出の際の衣類の選択も、できる限り本人が選ぶよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が好む食材や旬の食材を献立に取り入れるように工夫している。食材を選んで買う事も一緒に行い、調理後の味見、盛り付け、下膳等もできる方々と一緒に行っている	園内の畑で収穫した季節野菜をメニューに取り入れている。食事の下ごしらえや、食器洗い、後片付け等を男性の利用者も一緒に行っている。温泉浴を兼ねて外食や花見などを行ったり、時には誕生会をホテルで行い豪華な食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様個々の状態に適切な提供量・形状を職員間で共有して提供し、摂取量は毎回記録に残している。摂取量が少ない方には補食などで補っている。毎月体重測定を行い、必要に応じて提供量の検討の参考にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で可能なところはやっていただき、職員が仕上げを行っている。歯科往診を受けている方もおり、職員がケアの指導を受け、適切なケアを行うよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、個々の排泄パターンを把握し、個々に合わせたタイミングでトイレ誘導を行っている。部署会議などで使用パットの見直しを随時行い、ご本人・ご家族の意向を取り入れながらリハビリパンツの使用を減らしている	昼間は全ての利用者が誘導や声かけはあるものの全員がトイレ利用となっている。夜間もポータブルの利用者は2名ほどで、リハビリパンツから布パンツへ改善した利用者もおり自立に向けた支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い、個々の便秘の原因や及ぼす影響を理解した上で予防策をとっている。水分量のチェックと排便促進のある食材の取り入れや起床時の水分提供と毎日乳製品を提供。併せて散歩や体を動かす機会を設けている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、その他は個々のタイミングに合わせている。希望があれば入浴は難しくてもシャワー浴などの代替えで対応している	週2回、午前と午後の入浴となっており、1～2名で入浴している。希望によりシャワー浴をする人もあり、入浴を拒む人は職員を変えるなどの対応をしており、時には温泉に出かけることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、個々の居室や共有スペースでどの時間でも休めるようにしており、夜間は居室の室温や寝具の状態、入眠状況の確認を行い、気持ちよく眠れる環境作りに努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお薬説明書を読み理解に努めている。回診や受診により内服薬に変化があった際には必ず目を通すようにし、内服による変化の観察を行い記録に残して職員間の情報の共有としている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に応じた役割を担ってもらい、嗜好品や趣味などはご家族からも情報をいただき、日々の生活に反映させるよう努めている。季節に合わせた行事等で気分転換を図れる様にしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺の散歩やドライブ、買い物は日常的に行っている。地域の行事等に希望して出かける際にはご家族にも協力して頂き、付き添っていただいでの外出もある	施設周辺を日常的に散歩するほか、利用者の希望も聞きながら、菜の花やヒマワリの見学、ススキ取りに出かけ、山車の見物やコンサートなど、月10日以上のお外出支援をしている。また家族の協力を得て花火大会や芝居と歌謡ショーにも電車で行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時から自分で管理している方や、希望のある方には対しては、ご家族と相談したうえで、買い物時等支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会が多いこともあり、現在は行っていないが、ご家族の誕生日の際にはメッセージカードなどの作成を支援した。なお、面会の多くないご家族への手紙は、近日中に行う予定である		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日の天候や気温に応じて、照明やエアコンを使用し、不必要な物は置かない、わかりやすい環境を整えている。玄関や共有スペースの壁に、季節の植物や利用者様と作成した装飾、写真を飾り季節感を取り入れるよう努めている	食堂兼居間の横はカーペットのスペースがありソファとテレビが置かれている。天窓からは光がさしこみ快適な明るさとなっている。広く長めの廊下には、所々に椅子が配置されまた玄関の外や畑にも置いてある。玄関には季節の植物があり壁には行事や家族との大きい写真、季節の共同作品があり、利用者を和ませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の利用者様の状態や希望に合わせた場所で過ごせるように、椅子や畳を設置し居場所作りに努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた布団や物を持参して頂き、ご本人、ご家族の意向、状況を考慮したうえで、安全かつ居心地の良く過ごして頂ける様、努めている	居間には、ベッドやクローゼット、洗面台などが備えてあり使い慣れた布団や整理箱も持参している。また家族との写真や観葉植物、作品を飾る等居心地良く過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	例えばトイレがわかるよう「トイレ」「便所」と大きく示したり、必要な方には居室の扉にも自身の写真を貼り、わかりやすく個々の動線を考慮して環境作りを行っている		